

Topics

区立中学校防災部連合行事
「釜石市等被災地訪問」報告会

9月2日、ゆいの森あらかわで区立中学校10校の防災部による「釜石市等被災地訪問」の報告会が行われました。はじめに西川区長から挨拶があり、続いて各中学校から2名の計20名が参加した、8月1・2日の二日間の被災地訪問での体験や釜石市立釜石東中学校の生徒との交流についての発表がありました。報告会の最後に、釜石東中学校で作られた合唱曲「いつかこの海をこえて」を披露すると、会場にいた保護者をはじめ多くの方から拍手が起りました。



▲西川区長と各中学校の防災部員たち



▲被災地復興に向けての歌を参加した生徒で合唱

「日暮里道灌まつり」が
開催されました

11月9日、日暮里駅前イベント広場において「日暮里道灌まつり」が開催されました。

当日は晴天に恵まれ、太田道灌ゆかりの自治体・店舗による物販や観光PRのほか、伊勢原手作り甲冑隊の寸劇や甲冑着付け体験などのイベントに、家族連れをはじめ多くの方が来場されました。ステージでの演目披露後は、手作りの甲冑に身を包み日暮里駅周辺の太田道灌像や山吹の花一枝像周辺を練り歩きました。



▲日暮里駅周辺を練り歩く伊勢原手作り甲冑隊

令和元年度荒川区文化祭

小学生・中学生の 展示俳句入賞者と作品を発表!

荒川区は俳句のまちだよ

11月2日〜4日に、令和元年度荒川区文化祭・俳句展示会(会場・町屋文化センター)が開催されました。今回入賞された、小学生と中学生の作品を紹介し、ます(敬称略)。

中学生	小学生
<p>優秀賞</p> <p>雨あがり対岸むすぶ虹の橋 雨蛙のホップステップジャンプかな 水打って客を迎える商店街 蒼空よ鐘の音響く原爆忌 浴衣着て胸の高鳴る笛の音 この想いあなたにとどけ天の川</p> <p>第一中学校 第一中学校 第四中学校 第四中学校 第四中学校 諏訪台中学校</p> <p>3年 1年 3年 3年 2年 2年</p> <p>橋本桜佑 竹野花音 雪田翔 岡鷹叶 鈴木嶺資 濱田紗良 島川紗江</p>	<p>特別賞</p> <p>校庭に異彩を放つ濃紫陽花</p> <p>第三瑞光小学校 第二瑞光小学校 第六日暮里小学校 第一中学校</p> <p>3年 4年 2年 5年 6年 6年</p> <p>加賀稔大 山岸祐仁 石井優衣 新垣琉生 小川ゆり 黒田佳晏 岡部柚里</p>
<p>優秀賞</p> <p>炎天下気持ちを一つに組体操 かき氷友と舌だし色比べ しゆくだいにおいつめられてなつおわる なつやすみおうちでやすむランドセル ほたる狩り川のステージジひからせて</p> <p>第三瑞光小学校 第三瑞光小学校 第六日暮里小学校 第二瑞光小学校 第六日暮里小学校 第一中学校</p> <p>3年 3年 4年 2年 5年 6年</p> <p>加賀稔大 山岸祐仁 石井優衣 新垣琉生 小川ゆり 黒田佳晏 岡部柚里</p>	<p>特別賞</p> <p>目標へ向かって走る受験生 紅葉狩り葉の落としもの道ふさぐ</p> <p>第五峡田小学校 第三日暮里小学校</p> <p>6年 5年</p> <p>黒田佳晏 岡部柚里</p>

あらかわ
今昔ものがたり
日 [ばしょうくんと旅する奥の細道]

【問合せ】荒川ふるさと文化館 ☎(3807)9234



芭蕉さん越後路に行く〜日本海のでっかい景色を詠む〜

難所「出羽三山」と名勝「象潟」 6月に入り、芭蕉さんは、奥の細道の旅の中で最も道の険しい場所にたどり着いた。それは、旅の目的の一つだった修行の山「出羽三山」(山形県羽黒町)。気候がとて不安定な時期、山伏の衣装を着て気持ちを引き締めて「羽黒山」「月山」「湯殿山」に登ったんだって。

難所の「出羽三山」の巡礼を終え、芭蕉さんの足取りは軽くなって、楽しみにしていた日本海沿いの名所「象潟」(秋田県にかほ市)に向かった。穏やかな入江に小舟を浮かべ、大先輩の歌人・能因さんや西行さんがたどったという九十九島と呼ばれる海に浮かぶ島々や名所を巡ったんだ。干満珠寺(蛸満寺)というお寺の座敷からすだれ越しに大パノラマのような景色を眺め、いくつも俳句を詠んだんだってさ。日本海側の「象潟」は、太平洋側の「松島」(宮城県)と肩を並べるくらい美しい名勝として有名だったんだよ。

越後路で詠んだ「荒海や」の句 6月の終わりご

ろ、芭蕉さんの旅は「北陸道(新潟・富山・石川・福井県)」の北の端、村上藩(新潟県村上市)に入り、家老の榊原さんのお世話でお城などを見学させてもらった。この頃、ジメジメした暑さで、芭蕉さんは夏バテしてしまったと「おくのほそ道」に書かれているけど、有名な乙宝寺(胎内市)、弥彦神社(弥彦村)などにも立ち寄り、日本海を右手に見ながら南下していったんだ。

荒海や佐渡に横たふ天の河 芭蕉
夕陽が美しい出雲崎(出雲崎町)で、荒々しい日本海の波音を聞きながら、はるか遠くの佐渡島の上に架かる大きな天の川を思い描いて詠んだ句だよ。「おくのほそ道」の夜の句として掲載されているんだ。

大きな日本海の景色と天上の星は、芭蕉さんの旅の疲れを癒してくれたことだろうね。みんなも、「荒海や」の句を詠んで、芭蕉さんが見た天の川を想像してみてね。



越後路「龍頭奥の細道」(荒川ふるさと文化館蔵)